

第1回「知の拠点」整備構想検討委員会 議事録概要

1 日 時 平成29年9月20日(木)14:00～16:00

2 場 所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委 員	柴田洋三郎委員、今井一雄委員、浅田博史委員、大西利明委員、田中邦明委員、野村賢治委員
策 定 本 部	井口本部員(公立大学法人福知山公立大学理事長兼学長) 森迫本部員(国立大学法人京都工芸繊維大学副学長) 伊東本部員(福知山市副市長) 大槻本部員(福知山市高等教育施策に関する特別顧問)
福 知 山 市	大橋市長(途中退席)、渡辺市長公室長(途中退席)、森田市長公室理事、大西次長、岸本課長補佐、外賀主任、大槻主査、中田囑託

※奥田省三委員は欠席

4 議題

【議題1】「知の拠点」整備構想検討委員会の会議運営について

【議題2】これまでの経緯及び構想策定趣旨について

【議題3】両大学の文理連携について

5 会議概要

次第	内容
開会挨拶	大橋市長
委員委嘱	大橋市長から委員に委嘱状を交付。
委員会の目的等	【資料1】【資料2】により、本委員会の設置目的、意見聴取事項等について確認。
委員長等の選出	互選により柴田洋三郎委員が委員長、奥田省三委員が委員長職務代理に選出。
【議題1】 「知の拠点」整備構想検討委員会の会議運営について	【資料3】により説明 ⇒特に意見ないため、事務局提案のとおり了承。
【議題2】 これまでの経緯及び構想策定趣旨について	【資料4】1頁から8頁を説明 ⇒特に意見なし。
【議題3】 両大学の文理連携について	【資料4】9頁から20頁を説明 (主な意見) ■北近畿地域から大学進学する際は下宿しなければならず、経済的な負担が大学進学ハードルの相当高くして

	<p>いる中、地元で国公立大学があることは、中丹・丹後地域にとって大変ありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 福知山公立大学に工学系の学部であれば就職にも強く心強いと、学生に勧めやすい。 ■ 工学系学部は実験施設等に莫大な資金投資が必要となるため、財政面が心配であるが、情報系の学部であればそれほど資金投資を要しないので魅力があると考えられる。 ■ 地域の産業、工業を支える人材を育成するためにも、工学系の学部が必要ではないか。 ■ 地元の工業高校や高等専門学校の学生が進学・編入できるようにIoTに関連した学部が福知山公立大学にあればいいのではないか。 ■ 京都工芸繊維大学福知山キャンパスを作った理由のひとつが、京都市内での都会生活と福知山での地域の生活の両方を体験してもらうためである。来秋から福知山に来る学生30人のうち3分の1でも京都府北部地域に残ってくれば地域は変わってくる。 ■ 長田野工業団地では、高校卒業生の採用が主体であるが、福知山公立大学、京都工芸繊維大学と関係が深くなり、大学卒業生を採用できるようになれば嬉しい。 ■ これからの少子高齢化社会を見据えると、今後仕事をする人口が減ってくることが予想されるため、ロボットが必要になってくるのではないか。福知山公立大学にIoT、AIを学ぶ学部ができれば企業の採用ニーズは高いと考える。 ■ 昔は、一度は都会に出たいという学生が多かったと思うが、住み慣れた地元で暮らしたいという学生も増えてきたように感じるため、そうした考えを持つ学生をうまく大学に引っ張ることが重要ではないか。 ■ 他市から来た学生に研究活動や大学生活を通じて当地域での魅力を知ってもらい、当地域で就職してもらう仕組みづくりが必要。 ■ 福知山公立大学は京都工芸繊維大学と包括協定を締結しているため、例えば単位互換制度等を設けて1年間京都工芸繊維大学で勉強できる環境を整えることができれば、都会の生活、田舎の生活の両方とも経験することができる。 ■ これからの社会情勢を考えると、情報化を基盤にした学部でなければ新興国に対抗できないのではないか。
--	--

6 議事録概要

【議題1】「知の拠点」整備構想検討委員会の会議運営について

- 事務局から【資料3】により説明。

(柴田委員長)

- 委員の皆様、事務局の説明に対し、御意見、御質問はないか。

(全委員)

- 特に意見なし。

(柴田委員長)

- それでは、本件については、「了承」する。

【議題2】これまでの経緯及び構想策定趣旨について

- 事務局から【資料4】1頁から8頁を説明。

(柴田委員長)

- 委員の皆様、事務局の説明に対し、御意見、御質問はないか。

(全委員)

- 特に意見なし。

【議題3】両大学の文理連携について

- 事務局から【資料4】9頁から12頁を説明。
- 井口本部員から【資料4】13頁から17頁の「福知山公立大学の現状と将来構想案」を説明。
- 森迫本部員から【資料4】18頁から20頁の「京都工芸繊維大学の現状と将来構想案」を説明。

(委員)

- 現在、大学進学は慎重に選択せざるを得ない状況にある。以前はそこまでハードルが高くなかったが、近年経済的に苦しい学生が増えているため、大学進学にあたっては慎重にならざるを得なくなっている。
- 特に当地域から大学進学する際は下宿しなければならず、経済的な負担が大学進学ハードルを相当高くしている。
- そうした中、地元で国公立大学があることは、中丹・丹後地域にとって大変ありがたい。
- 大学卒業後、どこに就職できるかが重要となる。
- 福知山公立大学の地域経営学部のような経営系学部は、卒業後にどの程度経営に携われる職業に就けるかどうか未知数であるため、学生に勧めづらいところがあるが、工学系の学部であれば就職にも強く心強いと、学生に勧めやすい。
- ただし、工学系学部は実験施設等に莫大な資金投資が必要となるため、市民としては財政面が心配である。
- しかし、情報系の学部であればそれほど資金投資を要しないので魅力があると考えます。

- また、地域を担う医療や少子高齢化社会等を考えると保健系学部も魅力がある。
- 地元の産業を支えていかないと、どんどん人口が減少する。
- 地域の産業、工業を支える人材を育成するためにも、工学系の学部が必要ではないか。

(委員)

- 在学生267人の市内、市外の内訳はどの程度か。

(井口本部員)

- 開学前は、北近畿地域の学生をたくさん獲得するという目標を掲げていたが、実態としては多くの学生が北近畿地域外出身であるとともに、ほとんどの学生が市外出身である。
- 平成28年度は埼玉県を除く46都道府県から志願があった。特に兵庫県、愛知県からの志願が多い。

(委員)

- 個人的には、都会の学生は地域・田舎に憧れ、田舎の学生は都会に憧れるというイメージがある。
- 田舎の学生は、一度は都会に出たいという気持ちがあると思うので、地元の学生が入学したいと思える状況をすぐに作ることは難しいのかもしれない。
- まずは都会の学生に魅力を感じてもらって大学を作り、その後に地元の学生に入学したいと思ってもらえるように段階的な手順を踏むというような中長期的な視点が必要ではないか。
- 当地域には長田野工業団地や綾部工業団地をはじめとして様々な企業が集積しているが、募集してもなかなか人材が集まらない。当地域のほとんどの学生が都会に出て行き、地元に残らないという現状である。
- 地元の工業高校や高等専門学校が進学・編入できるようにIoTに関連した学部が福知山公立大学にあればいいのではないかと考える。

(森迫本部員)

- 本学が福知山キャンパスを作った理由のひとつが、京都市内での都会生活と福知山の地域の生活の両方を体験してもらうためである。
- 来秋から福知山に来る学生30人のうち3分の1でも京都府北部地域に残ってくれば地域は変わってくる。

(委員)

- 以前、中学校の進路指導教員や中学校3年生の保護者にアンケートを取ったところ、丹後地域の学生は進学志向が非常に強い傾向が見られる。一方、中丹地域は多様であるとともに地元志向の学生が少なくないという傾向が見られる。普通科の学生も地元志向の傾向があるようだ。

(委員)

- 丹後は極端に地元に残りたがらない傾向が強いように感じる。

(委員)

- 当地域に本社を置いて取り組んでいる企業は、長田野工業団地でも3社程度。
- これまで福知山の企業は大学との関係が構築できていなかった。そのため、長田野工業団地では、高校卒業者の採用が主体であるが、福知山公立大学、京都工芸繊維大

学と関係が深くなり、大学卒業者を採用できるようになれば嬉しい。

- 企業によって採用したい人材は異なると思うが、福知山の企業の中には特殊な技術を要する企業も少なくなく、例えば鋳物業であれば、鋳物に関する技術を持った人材を見つけるのはなかなか難しい。
- 鋳物業は、3Kと呼ばれる厳しい職場であり、これからの少子高齢化社会を見据えると、今後仕事をする人口が減ってくることが予想されるため、ロボットが必要になってくるのではないかと考える。
- 今後新素材の開発等を行いたい企業も少なくないと思うので、IoT、AIを学べる学部ができれば企業の採用ニーズは高いと考える。

(委員)

- 地域に根ざした大学を目指してほしい。また、地域に迷惑のない大学でもあってほしい。
- 北近畿地域の学生が福知山公立大学で学び、そして当地域に就職するという流れを創出できれば地域活性化につながる。

(委員)

- この2、3年で雇用情勢が変わってきた。
- 当地域で生まれ育った人が福知山公立大学に入学し、そして当地域で就職するというのも一つの流れであると思う。
- 昔は、一度は都会に出たいという学生が多かったと思うが、住み慣れた地元で暮らしたいという学生も増えてきたように感じるので、そうした考えを持つ学生をうまく大学に引っ張ることが重要ではないか。
- すぐに高校の理解を得ることは難しいかもしれないが、福知山公立大学を積極的にアピールし、少なくとも地域枠は地元の高校生で埋めることができる状況を作ることが必要である。
- また、他市から来た学生に研究活動や大学生活を通じて当地域での魅力を知ってもらい、当地域で就職してもらおう仕組みづくりが必要。これが地域連携の最終目的ではないか。
- 次回以降、地域との連携強化の手法に関する提案をいただければ嬉しい。
- 福知山公立大学で学ぶ学生は、地方自治体職員に近いところがあるので、地元の自治体と一緒に取り組んでもらえる地域連携事業を考えてもらいたい。

(井口本部長)

- 全国の学生が本学に入学しているが、大都会から来ているわけではなく、学生の多くは地方の田舎出身である。
- 近くの私立大学に行くより、公立大学に進学するほうが授業料等が安いので、地方の公立大学に進学する学生が多い。つまり、田舎の学生の取り合い状態にある。したがって、彼・彼女らの地元で公立大学ができれば、地元の公立大学を選択される可能性が高いため、志願が少なくなるのではないかと危機感を持っている。
- 北近畿地域からの志願が少ない理由のひとつとして福知山の家賃が高いことが挙げられる。
- 北近畿地域といってもかなり広域であるため、例えば丹後や但馬の学生が本学に入学した場合は、下宿を選択する学生が多い。そうすると、下宿するのであれば、都会の大

学を選択する。こうしたことも北近畿地域から志願が少ない理由の1つである。したがって、大学の選択にあたっては、その大学に学生の宿泊施設があるかないかが重要な要素になる。

- 個人的な意見ではあるが、本学の授業料は年間535,800円で他の公立大学並だが、仮に授業料を40万にすれば状況は大きく変わると考える。
- 本学は京都工芸繊維大学と包括協定を締結しているため、例えば単位互換制度等を設けて1年間京都工芸繊維大学で勉強できる環境を整えることができれば、都会の生活、田舎の生活の両方とも経験することができる。
- これは京都工芸繊維大学だけではなく、同じ学部系統を持っている都会の公立大学等と大学間交流ができればいいなと考えている。
- 今後、定員が200名規模になれば、教職員や京都工芸繊維大学福知山キャンパスの学生を合わせると約1,000人程度となり、福知山陸上自衛隊員数と同規模となる。
- 現在は、1学部2学科であるため設置基準上の教員定員は22人であるが、学生が増えれば教員も必要になる。設置基準上の問題も考えながら本学の将来構想を考えていきたい。

(委員)

- 学生の福知山公立大学へのアクセス方法はどのような状況か。

(伊東本部員)

- 北近畿地域からの大学へのアクセスとしてはバスがあまりないため、JRが主である。
- 学生は、JR通学か下宿が多い。
- 本市は長田野工業団地があるため、家族用のアパートは多いが、単身者用のアパートは少ない。
- 今後学生数が増えれば、学生の住居が必要になるため、本市としては住居確保をどのように進めるのかを課題と捉えている。
- また、大学近くに最寄り駅を作ってはどうかという意見もあるが、JRと協議が必要となる。
- 大学へのアクセスについては、次回以降、本委員会で協議したい。

(森迫本部員)

- 福知山市の下宿料は京都市内に匹敵する。
- 学生の下宿に要する経済的負担を少しでも減らすため、シェアハウス等を活用することもひとつの方法ではないかと考えている。
- 現在、福知山公立大学と共同して、福知山市中心市街地の空き家を活用し、大学講義等を行う「まちかどキャンパス事業」に取り組んでいる。
- 本学が、まちかどキャンパスの調査設計を担当しているが、1軒の空き家のみを活用するのではもったいないので、その通り一帯の空き家等を活用して「まちなみキャンパス」を作ってはどうか。
- 「まちなみキャンパス」の中に教員や生徒が生活できる空間を作れば、その通りに行けば常に学生がいる賑わいが創出され、中心市街地の活性化にもつながるのではないかと。

(委員)

- これからの社会情勢を考えると、情報化を基盤にした学部でなければ新興国に対抗できないのではないかと。

(森迫本部員)

- 今後ものづくりをする場合、IoTは必ず必要になってくるため、この分野を補強しなければならぬと考えている。

7 その他

特に意見なし

8 閉会

閉会挨拶・・・森田市長公室理事

以上